



研究者名※	川崎直樹	学位※	博士(心理学)
所属※	人間社会学部 心理学科	職名※	教授
連絡先	kawasakin@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	<a href="https://researchmap.jp/read0115679">https://researchmap.jp/read0115679</a>		
研究分野※	臨床心理学、社会心理学		
研究キーワード※	自己過程、カウンセリング、認知行動療法		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<p>青年期における恥感情の扱い方と現実的な自己概念の形成過程についての研究(科学研究費・若手研究(スタートアップ)・研究代表者、2008～2009)</p> <p>ポジティブ心理学モデルによる人間力育成のための心理教育的介入法の開発(科学研究費・基盤B・研究分担者、2010～2012)</p> <p>健康な自己愛における自己価値欲求の脱中心化方略とその心理的効果(科学研究費・若手研究(B)・研究代表者、2012～2015)</p> <p>感情障害へのコンパッションフォーカストセラピーの治療マニュアルの作成と効果の検証(科学研究費・基盤B・研究分担者、2016～2018)</p> <p>コンパッションの恐れに配慮した治療プログラムと支援ソールの開発と評価(科学研究費・基盤B・研究分担者、2020～2024)</p> <p>認知行動療法と職場連携による復職支援プログラムの効果検討(ファイザーヘルスリサーチ振興財団 第25回国内共同研究(年齢制限なし)・研究代表者、2016～2017)</p>		
社会貢献・産学官連携活動等	<p>国立精神・神経医療研究センター(NCNP)認知行動療法(CBT)センター客員研究員</p> <p>川崎市総合教育センター講習会「教員のためのカウンセリング基礎」2021年9月</p> <p>台東区社会福祉協議会講習会「ストレスと心のセルフケアを考える」2021年10月</p> <p>東京都人材支援事業団講習会「マインドフルネス講習会」2021年11月</p>		
受賞歴	<p>2011年8月 World Congress of Psychotherapy 2012(Sydney)にてBest Poster賞(共著)</p> <p>2012年10月日本パーソナリティ心理学会第21回大会 優秀大会発表賞</p>		

研究領域	臨床心理学	(SDGs)	
研究テーマ※	自己愛をめぐる実践研究と実証研究の交差—理解と支援のための仮説モデル構築		

**【研究の背景・目的・内容】**

本研究は、近年注目を集める自己愛パーソナリティに関するレビューである。自己愛に関する論文はここ10年で1600を超える数が出版されるなど大いに関心を集めているが、一方で研究領域としては断片化しがちで、まとまりを欠いている実情がある。特に臨床事例に基づく実践的研究と、調査や実験に基づく実証的研究との間の乖離は大きい。

本論文は、そうした状況を統合的に概観するため、対象、方法、目的、表現型の4つの軸で研究領域を整理することを試み、自己愛を統合的に理解する統合的な仮説を抽出することを目的としている。代表的な先行研究を引用して、研究状況を概観しながら、自己愛パーソナリティを、“誇大性と脆弱性”など矛盾した自己システムが断片化した未統合なプロセスとして捉えている。またその統合に伴う“苦痛”を、“共感的・共同的”に支える支援者の重要性を指摘している。こうした試みによって、今後の国内の自己愛研究が、実践的研究と実証的研究との統合を意識したものに展開していくことが期待される。

Table1 自己愛に関する実践的・実証的研究の現状

重症度 方法	病理			特性	
	事例	数量		数量	
目的	理解と介入	理解	介入	理解	介入
表現型					
誇大	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己愛研究の源流</li> <li>誇大-脆弱が包括されて議論される</li> <li>精神力動論によるパーソナリティ構造の議論が中心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DSMに基づく誇大性の研究が多い</li> <li>感情調整や共感プロセスにも注目</li> <li>近年は治療者評定による研究も増加中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPD対象の効果研究はほぼない</li> <li>治療プロセスについての研究がわずかにある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己愛の実証的・数量的研究の中心</li> <li>誇大性を測るNPIが研究の中心</li> <li>矛盾した自己制御プロセスとして説明するモデルが複数提案</li> <li>脆弱性を包括する尺度が複数提案。近年はPNIが台頭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「短期介入」実験が近年蓄積中</li> <li>介入は共同性の活性化や自己宣言による</li> <li>標的は対人関与、攻撃、共感、状態的自己愛など</li> </ul>
脆弱	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解と介入が一体的に議論</li> <li>国内では脆弱性(過敏性)自己愛の研究も多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DSM-5の複合形式モデルは脆弱性を包括</li> <li>治療者評定研究によっても脆弱タイプが示唆</li> </ul>	(ほぼない)	<ul style="list-style-type: none"> <li>脆弱性を分類・同定するモデルが国内外で議論</li> </ul>	(ほぼない)

注)NPI; Narcissistic Personality Inventory, PNI; Pathological Narcissism Inventory

**【応用例、研究の展望】**

臨床心理学的な実践とパーソナリティ心理学の理論や知見との再統合が期待される。それによって、自己愛をめぐる問題を抱えた対象者に、より日常的な文脈に自然に埋め込まれた心理学的支援が展開され、議論されることが望まれる。

**【研究方法の特色】**

臨床心理学的な実践とパーソナリティ心理学の理論や知見とは別個のものとして断片化しがちであるが、そこに巨視的な理解を試みている点である。

概要※  
(概ね1000字以内)  
(写真・グラフ等自由)

本研究関連  
特許・論文等

川崎直樹(2019) 自己愛をめぐる実践研究と実証研究の交差:一理解と支援のための仮説モデル構築にむけて— 教育心理学年報, 58, 167-184.

共同研究・外部機関  
との連携への期待